

まれつゝある際先づ通俗的な本書の出現は眞に時期を得たもので敢て江湖の一讀を奨める次第である (石橋)

Gas Analysis

T. M. Dennis & M. I. Nichols, 1929

pp. 499, ¥ 8.00 The MacMillan Co. New York

本書は一九一三年の初版に對する改訂版で其の後瓦斯分析方面の研究發達に成つた所を加へたものである。其の主要なるものは熱傳導を基準とせる瓦斯分析、瓦斯比重測定の新方法、インターフェロメーター及び其の用法、瓦斯の吸收並に大氣壓に對する正誤に就ての考察等であつて是等の追加と同時に現在使用せられざる方法又は他により優良なる方法の考案せられたものは之を除去してある。瓦斯分析に於ける結果の正否は他の分析と其の趣を異にして操作に就き出來得る限り元を明ならしめんとしてあるのは其の特徴である (内田)

工學博士 石井悅朗著

瓦斯製造工業

昭和五年 寶文館發行 三二五頁 貳圓八拾錢

著者は本邦に於ける瓦斯事業が著しい發達をなしたつゝある今日之に對する適當なる參考書の僅少なを遺憾としたのが本書である。本書は第二章に分たれ第一、第二章では瓦斯の諸性質並に熱化學の概要を、第三、第四章には瓦斯製造用原料、瓦斯の組成に就き述べ第五章乃至第二十章には主として瓦斯製造より供給に至る諸裝置等、並に副産物、天然瓦斯、低溫乾餾工業、水性瓦斯及びプロヂウサー瓦斯、石炭完全瓦斯化に就て簡単に述べてある。第二十二章は瓦斯事業を計畫せんとする人に必要なる諸項をなす瓦斯事業の出願、工事、豫算等を實例を擧げて説明してあつて

新刊紹介

恐らく本書の特徴であると思はれる、附録には瓦斯事業法施行規則、瓦斯用語を加へてある (内田)

燃料研究所技師 内田正次郎、山崎喜一郎、同技手 平野榮助共著 灰軟化點測定方法に就て 其の一

昭和五年七月 燃料協會發行

菊版六五頁 定價貳拾五錢(送料共)

汽罐若くは瓦斯化爐内のクリンカー生成は固體燃料の實用價値を何れ程減殺して居るか判らぬ、從て之が成因の探究は極めて重大な問題で現に各國の燃料研究界では競つて其解決に努めて居るが未だ完全に其目的を達し得たものが無いのは結局灰の耐火度測定の不備に歸着するものと考へられる

從來の多くの灰耐火度測定法は各れも其測定に當り多量の試料を要し、或は試料の受熱温度の指示不正確にして一方其測定殊に加熱雰囲気の変更應ずる裝置並に操作の複雑煩鎖なる等の缺點があつたので夫等の方法では單に試料灰の平均耐火度夫も漸く其概似値を示すに止まり之に依りクリンカー生成の根本原因探究の如き多數の試験と精密なる結果とを要求する研究に對しては寧ろ無刀の存在に過ぎなかつた

然るに本書に於て發表された新測定法は其簡にして要を得たる測定原理から上述の多くの缺陷を一掃せる點で斯界永年の懸案たりしクリンカーの成因に對する唯一の解決の鍵を提示したものと稱しても敢て過褒ではあるまい

尙本新測定法は單に之を灰の耐火度なる特殊範圍に限定せらるべきものでなく一般非金屬の耐火度例へばセーゲル錐材料の檢定若くは陶磁器用材の試験等にも當然應用し得るであらうから此方面の當事者の一讀をも併せて御奨めし度いと思ふ (編 輯)